

2026年4月 東京地区百貨店売上高概況

2026年5月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,360億円余
2. 前年同月比(増減率)	7.4%(4か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭8.4%(93.4%)：非店頭-5.1%(6.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (本年3月対比±0店) (前年同月比：±0店)
5. 総店舗面積	675,016㎡ (前年同月比：1.0%)
6. 総従業員数	12,300人 (前年同月比：-1.7%)
7. 3か月移動平均値	9-11月 1.9%、10-12月 0.9%、11-1月 0.5%、 12-2月 1.4%、1-3月 3.2%、2-4月 5.0%

[参考] 2025年4月の売上高増減率は-6.3%

【特徴】

4月の東京地区は売上高7.4%増(4か月連続)、入店客数1.7%増と前年実績を上回った。円安を背景にインバウンド売上高が14.8%増と二桁増で高伸したほか、国内売上高も6.2%増と幅広いカテゴリーで好調に推移した。ラグジュアリーブランドを中心とした高付加価値商材の伸長に加え、時計・宝飾等の高額品の好調が売上を牽引した。具体的なアイテムの動向は以下のとおり。

衣料品(6.0%増)：月上旬は肌寒い日もあり、ジャケットやブルゾン等の羽織りアイテムが動いた。中旬以降は気温上昇からブラウス、カットソー等の春物衣料のほか、Tシャツ等の初夏物にも動きが見られた。行楽シーズン到来により、スポーツ・アウトドア関連商品も好調。

身のまわり品(8.6%増)：ラグジュアリーブランドの靴、バッグ等、高価格帯商品が好調に推移し2か月連続プラス。婦人靴はスニーカー等のカジュアルシューズが好調で、サンダル、ローファー、晴雨兼用パンプスも堅調。アクセサリはブライダル需要を受け好調。

雑貨(14.2%増)：時計・宝飾等高額品が引き続き売上を牽引。化粧品は一部ブランドで前年価格改定前の駆け込み需要の反動減が見られたものの、インバウンド回復や新生活需要により全体では堅調。UV対策需要の高まりからサングラスにも動き。

食料品(1.5%増)：花見や行楽需要を背景に、弁当、惣菜、菓子等幅広い商品が動き、4か月連続プラス。菓子はギフト需要で和洋菓子共に好調。各社実施の物産展や海外展、食品催事は集客に寄与。

5月足元動向：国内外顧客共に堅調で、前年比10.4%増(5/17時点)。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗)
 - ①増加した：6店、②変化なし：4店、③減少した：7店
- (3) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上(同上/有効回答数9店舗)
 - ①増加した：2店、②変化なし：6店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2026年4月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	136,099,366	100.0	7.4
紳士服・洋品	10,001,518	7.3	2.9
婦人服・洋品	23,467,667	17.2	8.6
子供服・洋品	2,901,549	2.1	-3.0
その他衣料品	1,374,473	1.0	6.1
衣 料 品	37,745,207	27.7	6.0
身のまわり品	25,285,007	18.6	8.6
化粧品	12,620,361	9.3	1.9
美術・宝飾・貴金属	19,181,212	14.1	25.3
その他雑貨	4,440,137	3.3	10.0
雑 貨	36,241,710	26.6	14.2
家 具	1,110,990	0.8	-10.2
家 電	1,459,558	1.1	25.9
その他家庭用品	2,843,556	2.1	2.7
家 庭 用 品	5,414,104	4.0	4.8
生 鮮 食 品	2,879,705	2.1	-1.6
菓 子	7,851,725	5.8	5.0
惣 菜	5,877,463	4.3	2.4
その他食料品	8,165,693	6.0	-1.1
食 料 品	24,774,586	18.2	1.5
食 堂 喫 茶	2,100,059	1.5	0.8
サ ー ビ ス	2,232,561	1.6	16.4
そ の 他	2,306,132	1.7	-9.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,080,786 千円	-12.7
従 業 員 数	12,300 人	-1.7
店 舗 面 積	675,016 m ²	1.0

営 業 日 数	30.0 日	前 年	30.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、雑貨は二桁増となった。
 その他の品目は、婦人服・洋品が8か月連続、美術・宝飾・貴金属、菓子、惣菜が9か月連続、化粧品が3か月ぶりにプラスとなったが、子供服・洋品が2か月連続、生鮮食品が25か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	7.4	—	4か月連続プラス
紳士服・洋品	2.9	0.2	3か月連続プラス
婦人服・洋品	8.6	1.5	8か月連続プラス
子供服・洋品	-3.0	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	6.1	0.1	2か月ぶりプラス
衣料品	6.0	1.7	4か月連続プラス
身のまわり品	8.6	1.6	2か月連続プラス
化粧品	1.9	0.2	3か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	25.3	3.1	9か月連続プラス*
その他雑貨	10.0	0.3	8か月連続プラス*
雑貨	14.2	3.6	8か月連続プラス
家具	-10.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	25.9	0.2	2か月連続プラス
その他家庭用品	2.7	0.1	6か月ぶりプラス
家庭用品	4.8	0.2	2か月連続プラス
生鮮食品	-1.6	-0.0	25か月連続マイナス*
菓子	5.0	0.3	9か月連続プラス*
惣菜	2.4	0.1	9か月連続プラス*
その他食料品	-1.1	-0.1	8か月連続マイナス*
食料品	1.5	0.3	4か月連続プラス
食堂喫茶	0.8	0.0	7か月連続プラス
サービス	16.4	0.2	2か月ぶりプラス
その他	-9.6	-0.2	2か月ぶりマイナス
商品券	-12.7	-0.1	26か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>